

第1回札幌市ウォーカブルビジョン 策定検討委員会

議 事 錄

日 時 令和6年7月26日(金)13時30分開催
場 所 オンライン(事務局:札幌市役所5F南東会議室)

1. 開会

○児玉政策推進課長

それでは定刻になりましたので、これより第1回札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会を開始いたします。私は札幌市まちづくり政策局政策推進課長の児玉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。本委員会は、北海道外の委員が多数おりますことから今回はオンライン開催としております。委員の皆様におかれましてはご多忙の中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

本委員会は、事前に送付しております札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会設置要綱に基づき設置しており、当課が事務局を担当させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。なお本委員会は一般の皆様にも公開しております、会議終了後には議事録を公開予定ですので、あらかじめご了承ください。

オンラインで視聴されている皆様におかれましては本委員会の中でご質問やご意見を受け付けることが難しいため、終了後に事務局である札幌市政策推進課までご連絡をいただければ幸いです。では、それでは事務局を代表しまして、札幌市まちづくり政策局政策企画部プロジェクト担当部長の山内よりご挨拶申し上げます。

2. 開会挨拶

○山内プロジェクト担当部長

札幌市政策企画部の山内でございます。本日はお忙しいところ、第1回札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

札幌市では2022年に市制施行100周年という大きな節目を迎え、昨年には次なる100年を見据えた第二次札幌市まちづくり戦略ビジョン戦略編を策定し、その中で居心地が良く歩きたくなるまち、いわゆるウォーカブルシティを推進することとしております。札幌市に住む方々、そして国内あるいは世界中から札幌を訪れる方々にとって、居心地が良く魅力的な街であり続けるためには、道路や公園、広場などの公共的空間においてこれまでの慣例にとらわれず新たな価値を創造していくことが大変重要であると考えております。

そこで札幌市では、官民一体となってウォーカブルを実現するための指針となる「(仮称)札幌市ウォーカブルビジョン」を新たに策定することとしており、本日はビジョンの構成案や、効果的な手法を検討するための公募型実証実験の取組などについてご説明をさせていただきます。

ぜひ、皆様の専門的な見地からの忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いでございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3. 委員の紹介

○児玉政策推進課長

では、続きまして各委員の皆様より順に、ご所属や氏名について自己紹介をお願いしたいと思います。それでは恐れ入りますが、有村委員からよろしくお願ひいたします。

○有村委員

室蘭工業大学大学院工学研究科教授の有村です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○大藪委員

株式会社 SOCI 代表の大藪です。よろしくお願ひします。

○林委員

株式会社 commons fun の林と申します。よろしくお願ひします。

○三谷委員

株式会社 Groove Designs の代表取締役の三谷と申します。よろしくお願ひいたします。

○山崎委員

東京大学の特任講師の山崎と申します。札幌出身です。よろしくお願ひします。

○児玉政策推進課長

なお本日は泉山委員、道尾委員につきましては所用につきご欠席のご連絡をいただいております。

また、札幌市からは先ほどご挨拶させていただいた政策企画部プロジェクト担当部長の山内の他にまちづくり政策局の部長職 3 名が参加しておりますので、自己紹介をさせていただきます。

○稻垣都心まちづくり推進室長

都心まちづくり推進室長稻垣でございます。よろしくお願ひいたします。

○長谷川都市計画部長

都市計画部長の長谷川です。よろしくお願ひいたします。

○小林総合交通計画部長

総合交通計画部長の小林です。どうぞよろしくお願ひいたします。

4. 委員長の選出

○児玉政策推進課長

次に、当委員会の議事を進行していただく委員長の選出を行いたいと思います。委員会設置要綱では、互選により選出することとしております。事前に委員の皆様によりご意見を伺ったところ、有村委員を推薦するご意見をいただいておりましたので、有村委員に委員長をお願いしたいと考えております。このことについてご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

(意義なしとの声)

それでは以降の進行につきましては有村委員長にお願いしたいと思います。有村委員長よろしくお願ひいたします。

○有村委員長

ただいま当ウォーカブルビジョン策定検討委員会委員長を仰せつかりました、室蘭工業大学の有村です。改めてよろしくお願ひいたします。

山内様の方からこの委員会の体系のご説明がありました、札幌市の長期総合計画のプロジェクト3本柱の1つとしてウォーカブルシティの推進があるということ、居心地が良くて歩きたくなり、多様な活動ができる滞留したくなる空間の形成をどのように都心、地域交流拠点や、住宅市街地で展開していくか、整備していくかということに関しまして、我々専門の立場からご意見いただくというような委員会となります。

この委員会の役割としては、本年度中にビジョンを素案までは作成したいということと、各種実証実験の効果の検証をどのように行うかということがメインになるかと思いますので、それぞれ委員の皆様、ぜひご専門の立場からの忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

委員また事務局の皆様、2年間という長丁場になりますがどうぞよろしくお願ひいたします。

5. 議事

○有村委員長

それでは早速議題に入らせていただきます。事務局から、資料の説明をお願いいたします。

○事務局 廣瀬推進担当係長

政策推進課の廣瀬です。私の方から資料の説明をしたいと思います。

本日の流れについて説明いたします。現在委員長の選出をしていただきまして、これから3番の事務局説明に入っていきたいと思います。

まず「(仮称)札幌市ウォーカブルビジョン」策定の背景について改めての説明になりますが、説明させていただきます。札幌市では、令和5年10月に長期総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン戦略編」を策定しました。戦略ビジョンでは、スライドに示している通り、「『ひと』『ゆき』『みどり』の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ」を目指すべき都市像とし、ユニバーサル・ウェルネス・スマート・人口減少緩和を分野横断的に取り組む施策としております。ウォーカブルシティの推進はウェルネスプロジェクトの柱の1つとして位置づけられている重要施策の1つとなっております。

続きまして、札幌市におけるウォーカブル推進の意義目的について説明いたします。まずウォーカブルという経緯について説明いたしますと、ウォーカブルポータルサイトによると、街路空間を車中心から人中心の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へとしていく取組と示されております。また、ウォーカブルの効果につきましても様々あります、例えばコミュニティの活性化や社会的孤立の予防、自動車依存からの脱却による環境配慮など多様な効果があるとされております。

ここでなぜ札幌市がウォーカブルシティを目指すのかということについて説明したいと思います。ウォーカブルを目指す目的については、それぞれの都市によって異なっ

ております。札幌市におきましては、スライドに示している健康寿命の延伸、安全・安心な歩行環境、交流・にぎわいの創出の3点を目的に定めたいと考えております。その理由につきましてもスライドに示している通りになりますが、札幌市の持つ課題を解決するためと考えております。スライドの左側に示しております健康寿命に関しては、札幌市の健康寿命は、政令市のうち 17 位と低位な状況になっております。この要因の一つとして、積雪寒冷地であり、冬季間の外出が減少する傾向があると考えております。

続いてスライドの真ん中に示しております、安全安心な歩行環境に関して、北海道は交通事故の致死率が全国平均と比較して高い状況が続いております。都市別の推移によりますと、平成4年から平成 14 年まで 11 年連続で全国交通事故死者数数がワーストワンという状況が続いておりました。令和5年度の道内交通事故による死者数のうち約 40% が歩行者というデータもあります。また、誰もが円滑に移動できる環境の必要性、子供のための生活空間を形成する機運も高まっている状況です。

続いてスライドの右側に示します、交流・にぎわいの創出に関して、商業施設が集積しているエリアにおいて、例えば商業から住居系に用途転換されるなどの事例も相次いでいる状況です。このような状況から各拠点における商業機能の空洞化が進んでいるという状況で、併せて地域コミュニティの希薄化も懸念されております。また、観光戦略として、消費額の大きい海外客の誘致の強化が必要と考えております。これらの課題解決のために、ウォーカブル施策を推進する必要があると考えているところです。

これまでの取り組みについて簡単にご説明いたします。6月2日にウォーカブルビジョン検討のキックオフとして、サッポロウォーカブルシンポジウムを開催しております。検討委員の皆様にもご登壇いただきまして、健康、安全安心、交流・にぎわいの3つのテーマでディスカッションをしていただきました。ここでディスカッションいただきました意見を紹介いたします。

まず、健康寿命の延伸に関して、検討委員の皆様からいただいた主な意見をスライドに示しております。一部抜粋して読み上げますと、ビタミン D の生成には日光が非常に重要な役割を果たしており、高緯度に位置する札幌は、他都市より長時間屋外にいる必要性があるというご意見や、中国の研究において、車所有の有無で、5年後の体重が 10kg、運動時間が 30 分の差が生まれるという結果が出ており、自動車に頼らず歩いて暮らせる都市計画を進めることは健康施策としても重要であるといった意見を頂戴いたしました。

続いて、安全安心な歩行環境に関して、検討委員の皆様からいただいた主な意見をスライドに示しております。一部抜粋して読み上げますと、歩行者利便増進道路制度を活用する中で、あらゆる人の公平性を検討することが重要という意見や、自動車の速度規制を海外都市のように取り入れることの必要性、小学生未満の子供たちの安全をより考える視点も重要という意見を頂戴いたしました。

最後に、交流・にぎわいの創出に関して、検討委員の皆様からいただいた意見をスライドに示しております。一部抜粋して読み上げますと、イベント的にプレイヤーとゲストの関係で終わりがちであるため、キャストがいて、場や人との関係性を育てていくことが重要であるという意見や、みどりの存在は人同士の交流に繋がるといった意見を頂戴しております。これらいただいた意見につきましては今後、札幌市の内部で組成しま

したプロジェクトチームでの検討に生かしていきたいと考えております。

また、先ほどご説明しました3つのテーマに共通する課題として、雪の存在があります。雪の影響で、冬季間の外出が制限されている状況ですが、雪を活用して、冬でも外出したくなる、歩きたくなる仕掛けが必要と考えているところです。今年12月には世界冬の都市市長会が開催され、その中でも冬季間のウォーカブル施策について意見交換を行う予定しております。

続いて、札幌市ウォーカブルビジョンの関連計画について説明いたします。このビジョンの検討にあたっては、各種関連計画との整合を図りながら検討を進めていく必要があると考えております。また左下の緑色の囲みの部分になりますが、ビジョンを策定して終わりではなく、具体的なアクションに繋げていかなければならないと考えており、ビジョン策定後は推進計画の策定も検討を進めていく予定となっております。

これまでの説明を踏まえまして、現時点で想定しているビジョンの構成案をスライドに示しています。まず、先ほどご説明しましたウォーカブル推進の意義・目的をまとめまして、これを実現するための都心・地域交流拠点・住宅市街地、それぞれにおける目指す姿の整理・可視化を行いたいと考えております。加えて、これから行います実証実験を通して整理いたしますウォーカブル推進に資する効果的な手法をまとめ、官民それぞれの役割を整理した推進体制や、民間に対する支援制度をまとめることを考えております。また、誰のためのビジョンなのか。ターゲットを明確化することも重要と考えております。ターゲットとしましては、地域団体および企業また札幌市の行政内部と考えております。地域団体や企業に向けて効果的な手法や支援制度を発信することで、地域主体の取組を促進したいと考えております。また、前のスライドでも説明しましたが、ビジョン策定後、市の具体的な事業に繋げていきたいと考えているところです。

ここで、本日欠席の泉山委員より意見をいただいておりますので、紹介したいと思います。札幌のウォーカブル施策の1つの特徴としましては、除雪の雪だまりの道路空間、路肩の活用だと考えております。特に海外ではこの路肩の活用をカーブサイドマネジメントといい、パークレットなども含めて活用が進められているところです。現在、国土交通省の道路局でも検討を進めており、荷捌きやキッチンカーの設置、時間帯に分けて柔軟に活用するなどの検討が進められているところです。加えて、そこに自転車専用レーンの導入を検討する必要があると考えております。しかしそれには、リンクアンドプレイスネットワーク調査など道路を交通と滞留、リンクアンドプレイスに住み分けて考えていく必要があります。ウォーカブルは交通戦略との両輪で動くため、交通戦略の検討も必要不可欠です。という意見をいただいております。

まことにまでの内容を踏まえて、ウォーカブルビジョンの構成についてご意見をいただければと思います。ここで進行を有村委員長にお返しします。よろしくお願ひいたします。

○有村委員長

ありがとうございます。まず、この資料につきまして皆様よりご意見ご質問等、ますござりますでしょうか。私の方 Zoom の画面で全員分一斉に見えてしまふのでご自由にご発言いただければと思いますけども、どなたか特に質問はございませんか。フリーディスカッションで進行しても良いと思いながら資料を見ておりました。

では、私から話していきたいと思いますが、3つのサブテーマがあつて、健康と安全

安心と交流・にぎわいが3軸ありました。それで合わせて資料の中では空間の場所がわかれています、3つあります。こちらの方も、それが都心と地域交流拠点と住宅市街地で3つに分かれていたというところで、個人的にはこれでマトリックスを作ることの方が早いと思い聞いておりました。つまり、縦か横かに健康と安全安心と交流・にぎわいがあり、あと都心と地域交流拠点と住宅市街地、街中で3×3で9つマトリックスできると思います。その中でこのあと実証実験の話もあるかと思いますが、どのような場所で何を主にウェイトを置くのかというところが必要になると思い聞いておりました。

あと、泉山先生のお話については、その通りだと思っておりまして、カーブサイドマネジメントをやるならば、おそらく都心の方で考えた方がよいと感じます。また地域の拠点もあると感じます。さらには、自転車ネットワークもあります。これも問題といいますか、課題になると思います。全体のシンポジウムのときに、私自身が今札幌都心で展開しているサイクルシェアのポロクルの理事長をやっており、様々なデータを見ているというお話をしましたが、ポロクルは年間45万回程度利用されています。利用位置を見るとバラバラになっています。また、道路空間、自動車側に振られている空間を自転車が走っていて、結果的には少し怖いとか、自転車で走っていて事故に遭いそうだとか、そういうお話も出てくることから、札幌市は自転車の方に割り振った道路、またそのネットワークが都心、地域交流拠点、住宅市街地・街中のこの3層のネットワークの中でどういうところに入れていくべきなのかという議論もおそらく必要になると思います。これはこのビジョン検討委員会の中で当然お話が出てくると思いますが、他の計画が同時に今立ち上がって、その整合性を検討しなくてはいけないというお話がありました。そこで合わせながら、実際に実証実験をやりつつも、実証実験で終わらないように、財源と予算をつけて変わっていくというところまでいけると本当に良いと思っております。まずは最初の資料を見ておりましたが、このようなお話から振ってみました。

○大藪委員

ご説明ありがとうございます。有村先生がおっしゃったマトリックスを作るのはとても大賛成で、3つのエリアの都心、地域交流拠点、住宅市街地で健康と安心安全と交流にぎわいでも、やはり何を最重視するかというところも変わってくると思っていますので各政策も違うということで、そういった役割分担であったり、その違いをしっかりと明確にしたいと思っております。

特に安心安全というところが、歩きたくなるまちづくりによりそれができるというよりは、安心安全に移動できる歩行環境があるので歩きたくなるというような順番だと思っています。安心安全な歩行環境については他の健康寿命も交流・にぎわいの方もそうですが、このビジョンの方向性の方にしっかりと課題といいますか、現状の課題というものをしっかりと記述した方が良いと思っています。

スライドの方では、目的のところで割と総論として書かれておりますが、都心、地域交流拠点、住宅市街地とかなり性格の違う町がケースとして挙げられている中で、またそれぞれの課題ややれること・やれないことを、解像度高くビジョンの構成の中に「最初」に入れるべきと思って聞いております。

○三谷委員

大藪委員からも、お話のありました安心安全の部分に私も少し気になった部分があるので発言させていただきますが、安心安全というのが第1の前提といいますか、最重要の部分と思っております。今課題のデータの話も出たので、もし札幌市さんの方で把握されていれば教えていただきたいと思っておりますが、交通事故による死者数が40%後半であるというデータが出ていると思います。原因ですとか要因に当たる部分になりますが、特に特定の事故がどのような環境下で起きやすいということが、もし把握されているようであれば、課題感等も合わせて教えていただきたいです。

○事務局 廣瀬推進担当係長

交通事故の部分ですが、すみません。まだ数値的なデータしか追えておらず、原因といいますか、そういうところまで調べ切れてなかったため、そこにつきましては北海道警察などにもヒアリングが必要であれば行いますし、引き続き情報を集めていきたいと考えております。

○三谷委員

ありがとうございます。おそらく、どのようにこのような空間を作っていくかなど、最終的に新制度を作るという話も出たかと思うのですが、その制度を作つて、それを地域で使ってくださいということだけで終わりではなくて、それをどのように地域の中で合意形成していく、実現するかというところが非常に実現というところでは重要になってくると思います。そういう中で、どのようにファクトがあって、というところも、地域の住民の方にしっかりと示していきながら、そして開発しながらウォーカブルなまちづくりを進めていくということになるかと思いますので、しっかりとそのあたりも押さえていっていただければと思いました。

そういう中で、この他の話にもなるかと思うのですが、今の構成案のところでは目指す姿ですか、手法は書いてあるのですが、地域の方たちとどのように実現していくのかというところのプロセスやその実現に向けたステップといったところも少し解像度を高めていって、「どういう対応をしてどういう条件下であればこの制度は使えます」というところも書き込んでいけると良いと思いました。以上です。

○有村委員長

ありがとうございました。事務局の方から何かございますか。

○山内プロジェクト担当部長

札幌市の山内でございます。ご意見ありがとうございます。やはり課題の認識、それから実現に向けたステップいずれもやっぱり具体的なイメージっていうのを市民の方々と共有しながら進めるのが大事なのかなというふうに感じております。あと、有村先生からマトリックスを作つてというところでご提案いただいたところも非常に参考になると思っております。

その中で1点、特に課題といいますか、これからどのように進めるべきかというのが、例えばマトリックスを作つたときに一番複雑になるのが地域交流拠点になると思います。

札幌市の場合 10 以上の地域交流拠点を設定しているのですが、それぞれ特色といいますか、同じ拠点という位置づけの中でもまちの雰囲気、広がりが違う場所の中で、このマトリックスをどのように整理すべきであるとのお話しを聞きながら、課題として感じたところでございます。以上でございます。

○有村委員長

ありがとうございます。マトリックスの話が出ましたので追加で説明したいと思います。3×3のマトリックスを作って、我々の頭の中にあるのは、春夏秋のイメージが最初にあると思います。このマトリックス裏側に冬のマトリックスも多分出てきてしまっていて、そうすると空間の整備の方向も少し冬版は違うと思います。結局上屋がないと、吹雪のときわざわざ外を歩きたいかというと、そういうことは多分ないと思います。ただ、地域交流拠点や都心は地下歩行空間があり、実はウォーカブルそのものである。と思うときもあるのですが、冬にも威力を発揮しているのだと思います。ところが地域交流拠点になると、通路型なのか、そうではなくて広場みたいなところや滞留空間のところで、人が外で楽しんでいるような作り方も冬にはあると思います。したがって、夏と冬のこのデュアルモードで、それぞれの空間でどういうものを整理すべきなのかという図や絵はそれぞれ違うと思います。

また、ポイントで見るのかネットワークで見るのかでもずいぶんと整備の絵が変わってくると思いますので、個人的には実証実験はやるとは思うのですが、それぞれの拠点とか、住宅ならこのような感じというイラストといいますか、絵で起こすという作業がどこかで出てくると、とても市民の皆様には理解しやすいものになると思い、そのように考えておりました。

とりあえず、マトリックスの話の追加の説明ということで、進行していきたいと思います。よろしくお願ひします。

○大藪委員

今の話に繋げるとすると、やはりウォーカブルビジョンのその先としてどういうアクションを起こしていくのかと、その後の計画との役割みたいなものをビジョンの段階である程度書きたいと思っています。三谷委員からもありましたが、どのように地域に落としていくのかですとか、ここで出した地域交流空間のイメージは1個かもしれません、17 個の拠点に対して、次どういうアクションを行っていくのかですとか、このウォーカブルビジョンが見ている射程としての「年度」みたいなことも含めて、どのような構成やその先があるのかということも含めて、この本委員会でもそうですし、市民の皆さんと議論しながらビジョンに盛り込んでいきたいなと思っています。

○有村委員長

ありがとうございます。地域交流拠点が 17 個あるということで、それぞれ特徴がありますね。その周りのコミュニティの熱の入りようとかもありますし、例えばファーマーズマーケットとかキッチンカーミたいな話をすると、そこに出てくる事業者さんとのネットワークといいますか、コミュニティが予めあるのか、ということを整理に関わってくる部分があると思いますので、マトリックスはマトリックスであったとして、さらに細かいアプローチというものがあるということで、このような形でビジョンの方もまとめ方があるかと思います

ので事務局の方でご検討ください。

他、林さん何かご意見ありますか。山崎さんも何かあればお願ひいたします。

○林委員

17 抱点の全然地域の状況が違うと思いますし、モチベーションやメリハリつけながら進めていく必要があると思います。一応全部がウォーカブルになるというのは難しいと思いますので、何かそのあたりを戦略持って進める必要があります。あと大藪委員と三谷委員からもありましたが、僕もロードマップはとても大事だと思っています。解像度を上げて検討していければ良いと思うのですが、それがハードに関する実現可能性だけではなくて、ソフトなども含めて考えていかないと持続的にはならないと思っています。言葉を選ばずに申し上げると、冬は絶対地下を歩くと思います。やはり温かいですし、信号もないですし、絶対地下の方が歩きやすいと感じます。アイスキャンドルがあると地上を歩くかというところだと思います。もちろん綺麗だと思うので1回は歩くとは思いますけれど、それが全市的にその冬のウォーカブルに繋がるかといいますと、冷静に考えていかなくてはなりませんし、少し長くはなりますが、その行動変容を起こすような、ロードマップ、ステップも何か考えていかないといけないのではないかでしょうか。ハードだけではなくて、その人の行動を誘導するような仕掛けというのも、かなり戦略的に考えていかないといけません。それを、トップダウンとか行政主導で、「冬の寒い中も絶対歩きなさい。」ということも無いと思いますので、市民の方々自らが歩いてみたいと思うような、そういう仕掛けをしていく必要性をとても大切に思っています。何か別次元かもしれませんのが、そういった人の行動を起こすような施策も、少し取り入れていきたいと個人的には思っています。以上です。

○有村委員長

ありがとうございました。事務局の方から何かご意見ございますか。林さんのコメントに関しまして。

○山内プロジェクト担当部長

ありがとうございます。今、林さんからはハードだけでなくソフトも、というようなお話をございました。我々もそこが非常に重要なところ、これまで行政というとどうしてもハード部分の整備っていう役割と考えたのですけれども、やはり今回のこのテーマを進めていくにあたってはプレイヤーの存在とか、市民っていうところが必要なのかなと思っております。そういうこともありますて、この後ご説明させていただくのですけども、今年度は、公募型の実証実験を行い、この地域が自ら取り組んでいくという仕掛けが何ができるかと考えております。そうすることで林さんたちの持続性みたいなものが生まれないかということもちょっと考えて取り組んでいるところでございます。以上です。

○有村委員長

ありがとうございます。地域の熱意って多分交流・にぎわいのところですごく効いてくるのかなと思います。健康とか安全安心、健康はまず自分の自意識で歩かない限りは、なかなか繋がらないところあるかと思います。あと安全安心もハードウェアの方で相当を防げる部分もありますし、もちろん交通教育の部分もあるのですが、ハードウェアとかルールとか制度の話も相当効いてくると思います。ただ、この交流・にぎわいに関しては地域交流拠点とか都心とか、全く知らない方々と実は袖を触れ合うぐらい近いところで歩いている瞬間というものがあると思います。そういうところでうまくいろいろなコミュニティを混ぜていくといいますか、包摶していくような取組というものはソフトウェアも多分必要だけど、その地域の熱意がある場所からできるだけ考えていく必要があると思います。ロードマップという話をするならば、ある程度濃淡をつける、優先順位をつけながら進めていくということはあるかと思いながら聞いておりました。ご発言いただいてもいいですか。

○山崎委員

3点ほど申し上げさせていただきます。他の委員とも共通する部分もあるのですけれど、1つ目は、ロードマップについてですが、これからどう進めていくかということと同時に、札幌市さんがそもそもたくさんの計画をこれから作ろうとしていたり、もう既に作っているという段階にあるという点もロードマップの中の視点としてはすごく重要なかなと思います。計画間の整合性とか連動性っていうのはどう作っていくかということですけども、ウォーカブルというのが皆さんご承知の通り、とても様々なテーマに分岐していったり関連していたりするという性質を持っていますので、このビジョンだけで全てを成し遂げるというよりは他の計画にもある程度反映していただくところは反映するといったように計画間の連動整合っていうところもロードマップの中の重要な視点と思っております。

2点目は、このビジョンを作っていた先にその活動を評価する等、このウォーカブルな札幌というものが出来上がった姿をどういう指標をもって評価するかという指標とか効果を測定する手法の検討というのも並行して進めていき、それをビジョンに組み込んだ方が良いのではないかと思いました。それはこれから後ほどの議論にもあるかなとは思うのですけれども、社会実験を各地区で行っていくに当たっても検討していく必要があると思います。今回はこのウォーカブルビジョンのための社会実験という性質がありますので、その各地区で例えば歩行者専用の道路にしたときに、インパクトがあるかとかその通り安全安心に使うことができるかっていう個別具体的のウォーカビリティを高めるための社会実験というわけではなくて、全市としてこういう取組がもたらす効果とか、そもそもどういう札幌のウォーカビリティというものを定義してそれを高めていくかということを検討するための立証のパートナーみたいな位置づけだと思いますので、それをそういう意味では効果を測定するための評価指標みたいなものと組み合わせないと、ただ個別の実験が積み重なっていくだけでそれを束ねてどう捉えていくか、ビジョンに反映させていくかということが、なかなか難しくなっていくのではないかと思いました。

最後3点目は、地域の熱意などがとても大事だという話がありまして私も本当にそうだと思います。ウォーカブルに繋がるそもそも札幌のポテンシャルとか、アクティビティの資源みたいなものがかなりたくさんあるのではないかと思います。物的な資源としてはもちろん、チ・カ・ホのような空間性もあると思いますがソフトの資源としても、例

えばジンギスカンパーティをしているときの円山公園とかは、とても多かったと思いますし、いろいろな流れありますけどジンギスカンパーティをしているときの北大とか円山公園とかもウォーカビリティが上がっているような気がします。冬に関して言えば、大通公園でビックエアーとか結構イベントがやられることもあると思うのですが、雪まつりをはじめ、そういうものも寄与すると思います。別にそれは都心エリアだけじゃなくて、拠点エリアでも良いと思っているのは、宮の沢から発寒に抜けていくところの商店街で、共同で融雪溝に雪をなげているエリアとかがあると思うのですけれども、そういう冬の時期のウォーカビリティを改善する活動というものもあるのでそういう活動の掘り起こしみたいなことから帰納法的に何かビジョンを作っていくという手立てもあって良いのではないかと思った次第です。以上です。

○有村委員長

ありがとうございました。事務局の方から何かただいまのコメントに対しましてご意見等ございますか。

○山内プロジェクト担当部長

ありがとうございます。今山崎先生からいただいた中で1点目、札幌にたくさんの計画があつて様々なテーマにまたがる事柄なのではないかというお話をございました。これについても我々の政策企画部ということで企画部門ではございますけれども、実際このウォーカブルの事業を展開してもらった道路空間を使う、つまり、道路管理サイドともしっかりと連携してやっていかなければならぬと当然考えておりまして、そういう意味でも、これもこの後ご紹介させていただくのですけれども、今年度府内にこのウォーカブル施策を推進するための体制としてプロジェクトチームを設定しまして、我々企画部門から管理部門まで、横断的にこの大枠を検討する体制を作ったところでございます。つきましては、そういう中でしっかりと部門連携しながら、計画連携しながらこの通り進めたいと考えております。以上でございます。

○有村委員長

ありがとうございます。一通り一旦全て出たかなと思いますけども、資料1に関して、ただいまのスライドに関しまして、全般としまして何か他、コメント等ございますか。

個人的には、次年度予定されています札幌市のパーソントリップ調査のデータをどこかの段階でしっかりと洗い出して精査していくタイミングが、今年度できないと思うのですけれども、当然本年度はできないのですけれども、次年度の素案ができた後に、できるだけ定量評価を行う部分では、うまくこちらのビジョンの方に取り込むか、もしくはそちらのマスターplan、パーソントリップの後のマスターplanの方に反映させていくような形で、しっかりとこのウォーカブルなまちづくりを進めていってもらいたいと思っております。

ビジョンに関しては割と定性的な話で進めやすいとは思うのですが、なかなか定量評価できないと思います。とはいっても、例えば札幌市内の自転車の交通事故の地点はオープンデータで出ていますし、手元で持っていますけれども、2019年から2022年ぐらいで自転車の事故を見ると、札幌市内の広域で事故が起こっている状況です。これが歩行者対自転車であるとか、そうなってきた場合には住宅地ではどんな感じになる

のか等、また都心ではどうかということもありながら、ポイントで見るのか、動線ネットワークで見るのかというところで、またアプローチが変わってくると思います。本年度ビジョンではこうあるべきだ、というあるべき議論は我々できると思うのですけれども、それを検証するために次年度、他の計画推進する上で、定量的なデータをできるだけ集めていっていただきたいなと思っております。以上です。

○三谷委員

1点だけすいません。計画の話について先ほど山崎さんからもあったのですけれども、他の計画との関連付けについての話で気になった部分があります。今回のウォーカブルビジョンは札幌市の第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの個別計画という上位計画は戦略ビジョンがあるという形で、他にも個別計画は色々あるというのが右側に示されていると思います。その他の計画等の中で多分共通性があるところというのは確認していく部分があると思うのですけれども、今回のそのウォーカブルビジョンの位置付けをしっかりと整理してピン留めしておかないといけないと思います。結局その共通してることだけで、それぞれの部署が進めていくという形になってしまふと思うので、ウォーカブルな都市を作っていくためのビジョンというところなので、その具体的な整理っていうのはこれからだと思うのですけれども、このビジョンのどこかをしっかりとピン留めしてそれにきちんと紐づいて、そしてその他の要素の個別計画が作られていくという流れに、正しくそこが引っ張っていけるようなビジョンになることが重要だと思います。すみません。所感のようなものなのですが、発言させていただきました。

○有村委員長

ありがとうございます。他、ご意見コメント等ございませんでしょうか。

細かい話をすると私もたくさんあるのですが、それをやっていると日が暮れてしまいそうなのでしませんが、他の計画との連携についても考えながら、このウォーカブルビジョンの中で拾える部分ですとか、先行して進められる部分を今年度、実証実験を含めて行っていきたいと思いますので、事務局の皆様どうぞよろしくお願ひいたします。最後取りまとめて全体の質問を取りたいと思いますので、この議論及びこの資料に関しましては以上といたしまして、続きの資料になります。資料番号に沿って、公募型実証実験の概要につきましてご説明のほどお願いいたします。

○事務局 廣瀬推進担当係長

それでは資料の説明に戻りたいと思います。次のスライドをお願いいたします。ここからは公募型実証実験の概要と調査手法について説明したいと思います。またこちらの説明が終わりましたら、各検討委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。今回の公募型実証実験につきましては、前回6月に行いましたシンポジウムのときに募集の開始をいたしまして、その後7件の応募がありました。審査の結果、スライドに示している平岸、宮の沢、真駒内の3地区に決定しております。まず、この3地区の実証実験の概要を説明いたします。

まず、平岸で行われる実証実験について説明いたします。名称は「平岸夏祭り」となっております、8月3日(土)と4日(日)の2日間に実施するものとなっております。こちらの実証実験につきましては、既に定期的継続的に平岸マルシェという取組が行われて

いる地区において、道路空間の活用範囲の拡大と、公園の活用を新たに行うことで、来場者数や滞留時間の変化、行動の変化などどの程度効果があるのか検証するものとなっております。

続いて、宮の沢で行われる実証実験について説明いたします。名称は「コンサふれあい通り ホコ天化プロジェクト」となっておりまして、8月 24 日(土)に実施するものとなっております。当地区につきましては観光客も多く、歩行者の安全性が課題となっており、道路空間を歩行者天国化することで歩行者の安全性を確保するとともに道路で隔てられた二つの施設を連携して、にぎわいの創出を図るものとなっております。道路を歩行者天国化することで、来場者数や滞留時間の変化、アンケートなどによる安全性の感じ方などについてどの程度効果があるのか検証するものとなっております。

続いて3番目、最後になりますが、真駒内で行われる実証実験について説明します。名称は「真駒内駅前地区ウォーカブル実証実験」となっておりまして、9月 28 日(土)に実施するものとなっております。地下鉄真駒内駅前で人優先の空間として、にぎわい創出や交流の創出が求められるエリアとなっておりまして、駅前空間の活用をすることで、新たにぎわいや交流の創出を図るものとなっております。駅前空間に滞留空間をつくることで、来場者客や滞留時間の変化、アンケートなどによる安全性の感じ方などについてどの程度効果があるのか検証するような内容となっております。

続きまして、1番はじめに開催します平岸を事例として調査手法の説明をいたします。平岸の実証実験のタイムスケジュールはスライドの左側に示している通りで、15 時から 21 時、6 時間となっております。この間キッチンカーや飲食スペースのような常設されるものと、時間に応じて企画されるイベントがあります。調査につきましては、30 分単位で調査を実施しまして、どのコンテンツがどのような影響を与えるのか分析できればと考えているところです。すみません、この 30 分単位というのは、30 分単位で来場者数などのカウントを分けて分析するというような調査になっております。調査に関しまして、スライドの右下に記載の通りとなりますが、1番・来場者カウントの調査、2番・カメラを活用したアクティビティの調査、3番・来場者へのアンケート調査で、加えてそちらに記載しておりますが、周辺店舗への聞き取りによる波及効果を調査するものとなっております。

まず、来場者カウント調査について説明いたします。スライドの左側にエリアの図を示しておりますが、大きな通りからの人の流入をカウントすることを考えております。カウントにつきましては男女別、年齢の4つの区分に分けた年齢別をカウントいたします。こちらは目視によって判断してカウントいたします。また、あわせて車両の誤進入のカウントも行いまして、例えば周辺住民の交通の影響というものも検証できればと考えております。

続いて、カメラを用いたアクティビティ調査になります。今回、既存の平岸マルシェに追加して、公園の活用と道路空間の活用の拡大を行うものになっておりまして、今左側に示しているカメラの画角といいますか、こちらが追加された箇所になります。こちらの撮影を後日分析しまして、どのような人がどこでどの程度滞留しているのかというようなことを分析したいと考えております。右側に調査シートを表示しております、ちょっと見にくいかもしれないですが、調査の内容としましては、例えばグループで来られているのであれば、グループの人数、グループの属性(性別や年代など)、あとグループの行動や滞在時間等を調査する形となっております。

続いて、来場者に対するアンケート調査について説明いたします。調査は調査員2名によるヒアリングで実施する予定で、この実証実験ごとに100名程度はヒアリングしたいと考えております。調査の内容につきましては、スライドに示す15項目を考えておりまして、交通手段や滞在時間、あとは消費金額などをヒアリングしたいと考えております。また、どのようなコンテンツに人気があるのか、行動変容に効果的な点についてもヒアリングして分析したいと考えております。

4点目、最後になりますが、周辺店舗への波及効果の調査について説明いたします。実証実験後に半径500m以内の範囲で、飲食店などに対し売上金額や来店者数の変化、これによって通常時の割合といいますか、上昇率などが調べられると考えております。こういったことを調査することで波及効果というものを分析、効果検証したいと考えております。

以上4点が調査内容として考えているものとなります。これらの調査を分析しまして、スライドに今示しているものになるのですけれども、来場者の変化等から交流にぎわいへの影響、健康行動への影響を検証できないかと。また、アクティビティの変化等から、交流にぎわい、安全安心、健康行動への影響を検証できないか、アンケート調査の結果から来場者の主観的な感じ方というものを検証できないか、周辺店舗へのヒアリングから消費行動への影響を検証できないかということを考えているところです。

ここで本日欠席しております道尾委員から意見をいただいておりますので共有いたします。実証実験を通して、ウォーカブルに資する評価、指標化を意識した調査データを取得する必要があるので、それを期待しているという意見でした。また、今回は先に議論いただいておりますが、健康と安全安心、交流・にぎわい、こちらの3つのテーマにどのような影響を与えるのかという軸で、この効果検証をしたいと考えております。加えまして、この検討委員会ではなくて、別の都市計画マスターplanの検討委員会の中でも、札幌市のウォーカブル施策に関して面的な展開の必要性に関する意見もいただいているところです。今後は先ほどご説明しました都心だとか地域交流拠点、それぞれのエリアにおきまして、ハードとソフト事業の連携、また複数の取り組みを連携させ、継続的に行われること、そういうことが普通のエリアの価値の向上に繋がっていくものと考えております。加えて、それぞれのエリアの相乗効果を発揮するためにも、それぞれのエリアを繋いでいくことの必要性も考えています。これらにつきましては今後、札幌市役所内部で組成しますプロジェクトチームで検討を含め、深めていきたいと考えております。

ここまで内容を踏まえまして、主に実証実験の調査内容や効果検証について皆様からご意見をいただきたいと思いますので、進行を有村委員長にお返しいたします。よろしくお願ひいたします。

○有村委員長

ありがとうございました。それではただいま事務局より説明のありました内容につきまして、皆様よりご意見ご質問等ございませんでしょうか。

○山崎委員

質問1点ありますて、これはイベント時だけやる予定なのか、平時との比較みたいなこともする予定なのかを1点お伺いさせていただければと思います。

○事務局 廣瀬推進担当係長

すみません。説明が不足しておりました。こちらにつきましてはこの実証実験の日それとは別の日のやつてない日の比較を行うものとしております。

○山崎委員

承知しました。流れでコメントもさせていただいてもよろしいですか。細かいことも含めてなのですが、まず、基本的な評価項目としてはとても充実しているのではないかと思っております。充実していると思ったのはアンケートベースでの居心地とか満足度みたいなものを聞く調査と、あとは行動ベースで誰が何をしているのかというのをどちらも取るというのができる調査だと良いと思っていたので、そういう内容になっていると思いました。

細かい点として付け加えたいと思った点は、1つはその分析の段階といいますか、結局どのようなコンテンツがどのような人の滞留をもたらして、その滞留活動は快適だったのか等、居心地が良かったのかということもアンケートで聞けた方が良いと思っております。満足度というのがあると思うのですが、今回来てこの場で歩いたりなど、少しベンチに座ったりしたことで、居心地が良い屋外空間且つ快適だったなど、またそもそも歩きやすいと思ったかということも聞いてもいいかもしないと思いました。

もう一つはアクティビティ調査の項目を立てるのが、結構骨が折れる作業だといつも思っています。その後にどのように分析をしたいかということを、何となく念頭に置かないと、結局単純集計をバーにするみたいなことしかできなくなるというのが、自分の経験としてあります。一つ目安になるのは、ヤン・ゲールさんとかが社会的行動に任意行動、必要行動みたいなことでおっしゃっておりますけれど、コミュニケーションをとっているかどうかという軸と、あと公園じゃないところや屋外じゃないところでもできることをわざわざここに来てやっているということは、居心地が良いのではないかという事にみなすという評価の軸があると思うので、そういう分類が最終的にはできそうな項目を立てるということを事前に知っておけると良いと思いました。

あとはカメラをもし足せるのであれば、一辺から全部見るというのは難しいと思いましたので、カメラを買うという検討もあって良いと思いました。もちろんその事後の評価が大変になってしまふということのトレードオフなので、検討をしていただければと思います。以上です。

○有村委員長

ありがとうございます。事務局、何かコメントござりますでしょうか。

○事務局 廣瀬推進担当係長

アクティビティ調査につきまして補足をいたしますと、今ご指摘いただいたかカメラ1台だけだと補足するのが難しいというのは我々の方もそのように考えておりまして、補助的な調査としまして、ヒアリングを行う、アンケートを行う調査員が、例えば、時間ごとにどういったその人の滞留の状況になっているのか、どこにどのぐらいの人がいるのかっていうカウント調査をこのアンケートの調査員が補助的に行うということは追加でやりたいなということで今検討を進めているところです。アンケートにつきましてもいろいろご意見いただきましたので、追加が可能かということも、今後内部で検討していきたい

と思います。

○有村委員長

ありがとうございます。他ご意見ございませんでしょうか。

○林委員

平岸の取り組みは、私も初回から携わらせていただいてよく存じ上げているのですが、この先にどう考えるのかというところがちょっとだけ気になっています。効果検証してその先、例えば今行われている平岸マルシェの景色を毎朝やるとか朝市みたいな景色にしていくこととか、例えば週末市みたいにするのかとか、どう繋げていくのかも、主催側としっかり話すと良いと感じます。もちろん実施側も頑張ってやっておりますので、毎朝実施してと言っても絶対無理です。実施中で、例えば地元商店街さんとの結びつきが課題みたいなところもありますし、別次元もあります。今歩道上に、警察さんと協議の上で椅子テーブルがバートと並んである状態ですが、周りがそのままにふさわしいかどうかということ、もちろんあると思います。公園が良い位置にあるのですが、その公園と連動した方が良いのか、させない方が良いのか、というところもありますし、効果検証は項目とかはすごく考えられているとは思うのですが、その結果どのような方向に何か繋げていくのか、というところがわからなかつたなと思います。あらかじめ事務局の方でイメージがあるのかなど、あるいは無いのであれば今後主催側と我々とが協議しながら、その辺りも見据えて考えていくことができるのかどうかなどについて、その辺りはいかがですか。

○有村委員長

事務局何かございますか。

○事務局 廣瀬推進担当係長

平岸マルシェの関係だったのですけれども、今回この実証実験で公園の活用ということを追加したことと、道路の範囲の拡大ということを行っております。これにつきましては、主催者とも今後共有していくますが、今確認している思いとしましては、本公園の活用というものは進めてやっていきたいということで確認しております。また、隔週2週間に1回平岸マルシェを行っていると思うのですけれども、それを今後どのようにアップデートしていくのかというのは必要な視点だと思いますので、また改めて主催者の負担なども考えながら、協議をしていきたいと思っております。

○林委員

そうですね。本当に主催される方々との思いももちろん大事でなんんですけど、事務局も含めて我々がさっきの有村先生との話で 17 個拠点がある中で、ここがどういった全市的なウォーカブルにとってどう位置付けられて、誰がどんな幸せを感じるような道になるのかという視点は絶対主催者側ではわからないところだと思いますので、何か両輪で考えていくと良いのかなと思います。そうすると多分調査項目も微妙にアップデートしなきゃいけないところも出てくるのではないかなと思いました。

○三谷委員

調査のアンケートの方でコメントしたいと思うのですけれども、まずは今回の公募型の実証実験で、このビジョンを作る中で民間の方たちと一緒に実証実験を行うことはすごく素晴らしいことだと思っております。これは官民で連携していかにウォーカブルを実現していくかというのが大きなポイントになると思いますので、その最初の接点といいますか、しっかりと地元と繋がっていくということを意識しながら進めていけると良いのかなと思います。

アンケートの内容で気になっているのが、このコンテンツに関する事といいますか、どれかと言いますと、今回イベント仕立てのものが中身として多いと思うのですが、イベントのコンテンツを評価するような内容のものが、項目のメインになっていると思うので、どちらかと言いますと、日常平岸の地区にどのくらいの頻度でどういう目的で来ていますかなど、日常の訪れ方というところもしっかりとアンケートの中で聞いていくというところが重要なと思います。その部分を意識して日常に関する項目と、今回の社会実験イベントとしての感じ方といいますか、普段と違うところを比較するというところが、聞いてる側からもしっかりとヒアリング受ける方が頭の中で考えられるような仕立てにしていくことがすごく重要だと思います。

先ほど、地元の方の話もあったと思うのですけれども、事前調査のところでもヒアリングをされるのだと思うのですが、そのときにウォーカブルの主体性というような項目があったのも、今回の体制というところの整理だけではなくて、しっかりとヒアリングして、ステップホールなんですね。これから本当にウォーカブル化を進めていく中で、今回の採択団体の方だけじゃなく、その周りの他の関係者もしっかりと特定していくと言いますが、そういった方たちがいらっしゃってどういう状況にあるのかというところも把握するというところも調査の一環で重要なポイントだと思いますので、その事前調査といったところ、基礎情報の整理と書いてあったところは市も力入れて、ヒアリングをしていただければ良いのかなと思いました。

またすみません。もう1点ですね。この実証実験が終わった後、事前調査、現地調査という流れのものがありまして、終わった後の振り返りも重要と思いますので、そこも事務局さんの方でやっていただけたらと思いますし、その恒常化に向けて、今回は何例とかイベント的な形で実証実験をやる形になると思うのですけれども、恒常化に向けて何が課題なのかというところを見せながら、ビジョンに反映していく話が吸い取れるのかと思いますので、振り返りの中でそれをしっかりと、採択団体さんと一緒に洗い出していって、今回の中ではクリアできなかったことも多く出てくると思いますので、それとその中で民間には何ができるのか、行政には何ができるのか、何を目指していくのか、というところの話の中で、地域ビジョンを作ろうという話になるかもしれないため、そのような展開に向けて動いていけるようなこの1年の間の実証実験にしていけると良いと思います。以上です。

○事務局 廣瀬推進担当係長

すいません。先ほど少し不足がありましたので追加で説明をさせていただきたいと思います。アンケート調査につきまして、今、三谷委員からのご意見では、その実施日のアンケートとそれ以外での引き取りというものの必要性ということについてご指摘があったと認識しております。こちら設定しているアンケート調査につきましては説明が漏

れていましたが、実施日に来場者に対して聞き取りを行っていくもの想定して今作っておりました。ただ今いただいたご意見というのは、例えば新たなイベントの関係者の掘り起こしといいますかそういったことが、こういったアンケートなどの聞き取りを通じてできるのではないかということだと思いますので、そういった新たな掘り起こしといいますか、後ほど説明もさせてもらいますが、市民ワークショップなどを実施することで、その関心を広めていったりであるとか、関係者を広げていくことは当然やっていきたいと考えております。このアンケート調査だけではなくて、他の活動をもって新たな地域プレイヤーの掘り起こしといったものも進めていきたいと考えているところです。そこにつきましては、また後ほど説明をさせていただければと思います。

○三谷委員

先ほど私が申し上げたのはどちらかというとアンケートの中の「当日アンケート」の話でした。当日アンケートの中に、調査の質問項目として、日常ここにどれくらいの頻度をどういう目的で来ているのかなど、日常の使い方という現状を知るというところも入れた方が良いのではという意味合いで発言させていただきました。

○事務局 廣瀬推進担当係長

承知いたしました。そこに対しましては日常に関する項目とこのイベントに対する感じ方といったものをしっかりと聞き取れるように項目の整理をしたいと思います。

○有村委員長

ありがとうございました。他ご質問コメント等ございませんでしょうか。よろしいですか。

○大藪委員

今回の社会実験に関して、ビジョンの策定とともにこういった地域のアクションを起こしていくながら官民で取り組んでいくこと自体、三谷委員からもありましたがとても素晴らしい取り組みだと感じています。

その一方といいますか、その中で、ビジョンで議論することと、この社会実験単体で評価することを両方接続しながらビジョンに反映したりということが、とても難しい内容だというのは感じています。地域交流拠点全体とか、住宅市街地も含めた議論と、本当にこのような各単体の取り組みの効果指標をどう連携させるかというのは、とても難しく、難易度が高いと思いました。本来あるべきとしたら、例えば平岸のまちのエリアビジョンとかエリアプランみたいなものがあった上で、この社会実験がそれに資するのかという視点で評価すべきと思いますね。今挙げていただいている効果指標とかは実証実験単体としての評価としてはとても素晴らしい内容だと思っているのですが、その少しマクロ的な視点だとビジョンに繋げる視点というのはとても難しいと思っています。それはビジョンがまだ骨子の段階であったりだとかという策定状況にも関わるところなのですが、その理解の上でやはり事務局側といふか札幌市さん側としては、この単体の社会実験の効果測定で今挙げていただいたものはもちろんやる必要があると思っているのですが、加えてといいますか、もう少しマクロ的な視点で、例えばこの3つの社会実験を眺めた上で、それぞれの取組を少し手法化するというか、例えば平岸だったら、公園と合わせた道路を歩行者専用化したときの取組ですね。宮の沢だったら道路

単体のホコ天化、真駒内だったら公道を活用したパターンですよね。少し手法化するといいますか、マクロ的な3つ並べた上での、今後他でも社会実験を来年度以降も含めてあると思うのですけれども、どういったものがあると地域交流拠点のスケール感においての手法になり得るのかですとか、そういう視点がいると思います。先ほど三谷委員さんもおっしゃられたように、行政が何をやって民間が何をやるのかというところも含めて、おそらく主催者さん側はエリア全体のことも考えられていると思っていますので、そういうことにも議論する必要があると思いますが、社会実験全体を3つ並べた上で何か評価できることなどを入れていかないと、次に繋がっていかないのではないかと感じます。各社会実験のコンテンツが良かったね、というだけでは終わらないようにそのあたりは相当戦略的にやっていかなきやいけないと思っています。また細かく難しい課題なので一緒に考えたいと思いますが、このような議論を今後していかなきやいけないという投げかけです。

○有村委員長

ありがとうございます。他ご質問ございませんか。

私からもそれでは一つ意見といいますか、実証実験に関して、平岸、宮の沢、真駒内を見ると少しそれぞれ特徴があるのかなと思うのですが、気をつけなきやいけないのは、イベントの効果そのもののインパクトを図るようなことになるとあまりウォーカブルな話には繋がっていかないのかなというところの懸念事項としてあります。それで例えば、健康、安全安心、交流・にぎわいでかろうじて健康と安全安心がついていた項目もありましたけども、ほとんどこれ交流・にぎわいなんですね。使っているものは。それで、都心、地域交流拠点、住宅市街地ということを考えると、地域交流拠点でソフトウェアのパワーがあるところに関して実証実験を行っているのだと思います。それでその前の週の休日の人出を測って、このイベントがあるときの人出を測るとその差分でインパクトは測れますが、基本的に盆踊りとかやつたら絶対人は来ると思います。しかも8月の3日、4日だからもう絶対ポテンシャルがある日ですよね。結果的に、「人出が増えました、ウォーカブルです」と言っても、単純に車で来ているかもしれません。これをやるときの評価指標は、やっぱり外にいて心地よいポイントとは何なのか、ということをヒアリングアンケートと合わせて聞いていくことだと思うのです。あとソーシャルキャピタルがこの地域で発現していくようなことを考えると、しばらく会えなかった知り合いと会えましたとか、あとキッチンカーとかいろいろで店出ると思うのですが、そこで新しい知り合いができたとか、話しかけましたかとか、何かそういう人のコミュニケーションの総量が増える仕掛けとは何だったのか、というところを見るのであるならば、意味があると思いました。ですので、普段使いのインフラを考えると、イベントがないときも皆さんここを好んで歩いてもらいたいわけですよね。それは平岸はこのままだと、タクシー会社のその場所を使ってたりするので、なかなか難しいと思いますが、それでも他の場所、例えば宮の沢とか真駒内とかインフラ整備の話も出てくると思いますので、そのときにこういうベンチがあつて木陰があつてこういうお店もあつてみたいなものが揃うと、ある程度人が留まるとかですね、そういう仕掛けの発想に繋がるようなところを調査項目で入れておくのが良いのかと思いました。以上です。何かご意見ございますか。

○事務局 廣瀬推進担当係長

特にアンケートなどの調査項目につきましては、今皆様からいただいた意見を踏まえまして、再考といいますか、組み直すことができるかなと考えておりますので、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○有村委員長

ありがとうございます。公募型実証実験の効果検証等に含めまして他ご意見等ございませんでしょうか。よろしいですか。こちらの方もまとめて最後にご意見等あれば、聞き直し質問の時間をとります。

続きまして、スケジュール案及び後ろのスライドにつきましてご説明をお願いいたします。

○事務局 廣瀬推進担当係長

それでは改めまして資料の説明をさせていただきたいと思います。右下 21 番のスライドから説明をしたいと思います。

今後の取組について説明をいたします。7月 28 日(日)に市民ワークショップを開催しまして、参加される皆様が好きな場所、歩きたくなる場所についてデザインシンキングの手法を取り入れてまとめていきたいと考えております。また、先ほど説明しました3 地区の実証実験に実際に参加するフィールドワークというのも併せて実施していくこととしております。この中でこのフィールドワークに参加していただいた方に、アプリケーションを入れていただいて、この実証実験行くことによってどのぐらいこの行動量に変化が出てくるのかということも図れれば考えております。

続きまして、庁内の推進体制とプロジェクトチームの設置について説明いたします。ウォーカブル施策は多様な分野に跨っているため局横断的な推進体制の構築が必要不可欠と考えております。本市におきましてはまちづくりの分野だけではなく、道路や公園を管理する部門、観光や健康を所管する部局などと連携して検討をする体制を構築しております。6月 18 日には第1回ウォーカブル推進本部会議を実施いたしまして、本部長である副市長からはウォーカブル関連施策が、公共的空間の新たな価値創造が必要となることから、これまでの慣例に縛られず、新たな制度の活用や、既存の事業の見直しなど積極的に行うこととウォーカブル関連施策に関する総合的な課題に対応していくため、市役所内部の連携のみならず、産学官民連携の視点を踏まえ、様々な主体との協働による取り組みを一層強化していくことといった指示を受けたところです。

今後のスケジュールにつきまして説明いたします。今年度中のビジョンの骨子策定に向けて、スライドに示す通り進めていきたいと考えております。本日の検討会の後、3地区において実証実験を実施し、実証実験の効果検証をした後に、第2回目の検討委員会を実施したいと考えております。第2回では実証実験の結果報告と、プロジェクトチームでの検討状況の報告を踏まえまして、改めて議論をさせていただきたいと考えております。また、3地区の実証実験が終わりましたら、3地区の主催者における懇談会を実施して、また成果報告会ということで、前回行いましたシンポジウムのような形で広く市民向けに報告会をさせていただければと考えております。そういうたった議論を踏まえましてビジョンの骨子というものを作成していくわけなのですが、年度内には第3

回目の検討委員会を実施しまして、ビジョンの検討状況、中間報告を実施したいと考えております。スケジュールにつきましては以上となります。

続いて、情報提供をさせていただければと思います。ここからは現在行われています取組などにつきまして情報提供をさせていただきます。まず、都心部で行われている取組になります。スライドに示しているのは、都心部における仲通りの魅力化に向けた社会実験になります。仲通りの魅力化に向けて、滞在空間作り、飲食や物販の実施に取り組む実験で、ただ空間作りをするだけではなく断続的な道路占用の運用に向けて検証することを主な目的としております。まだ実験中のため詳細なデータ整理、効果検証は実施できておりませんが、スライド左下にその状況を示す写真を載せております。多くの人が滞在している様子が確認できている状況となっております。先ほどの仲通りでは空間活用による魅力化を目指した実験を行っていますが、都心の仲通りにつきましては、沿道施設への荷捌きや歩行空間などの交通機能の確保も極めて重要なものとなっております。この仲通りの現状は貨物車両や一般車両の駐停車が多く、安全に通行できる歩行空間が確保されていない状況となっております。そこで、沿道店舗と連携した館内物流体制の強化等による荷捌き効率化と道路空間のタイムシェアによる歩行者空間確保を目的とした実験を9月に行う予定になっております。この実験を経て、将来的には先ほど前のスライドを示したシャワー通りのような魅力的な仲通りにしていきたいと考えているところです。

続きまして、札幌市の象徴的な空間である大通公園の取組について情報提供いたします。現在、大通公園のあり方検討会が進められておりまして、あり方検討会では、大通公園に求められる役割を整理しまして、市民のニーズを具体的に把握して、その具体化に向けた取組や利活用を検討しているところです。今年度中には計画を策定する予定となっております。

こちら最後になりますが、先日ですね7月 23 日に官民連携窓口として SAPPORO CO-CREATION GATE を設立しております。既に7月 23 日からテーマ型の民間提案の募集を開始しております、その中の1つとして、冬でも外出したくなる、歩きたくなる札幌版ウォーカブルシティを設定しております、冬季間のウォーカブル施策についてアイディアを募集しているところです。事務局からの説明は以上となります。進行、有村先生にお願いします。よろしくお願いいたします。

○有村委員長

ありがとうございました。それではただいま事務局より説明のありました内容につきましてご意見ご質問等ございませんでしょうか。

私から一つ質問ですが、今後のスケジュールでページ 23 枚目になると思うのですが、只今1回目のビジョンの検討委員会が本日開かれてる中で、市のプロジェクトチーム、都心、地域交流拠点、住宅市街地プロジェクトチームの検討が年内に何度か開かれると思うのですが、この検討状況につきましては委員会の各委員の先生方にも情報を展開していただけるものなのでしょうか。

○事務局 廣瀬推進担当係長

先ほどご説明の中では第2回の検討委員会で情報提供させていただくというような

ことでご説明させてもらいましたが、こちらにつきましては進捗に合わせて適宜情報共有できればと考えております。

○有村委員長

わかりました。ありがとうございます。ご質問ございませんか。社会実験等も開かれるということですが、特によろしいでしょうか。

○林委員

最後にご説明のあった SAPPORO CO-CREATION GATE とはどのようなイメージなのですか。また民間募集されておりますが、ここで行われることもこのビジョンに反映していくようなイメージですか、わからないので教えてください。

○事務局 廣瀬推進担当係長

こちらにつきまして、先ほど実証実験をご説明させてもらいましたが、今年度行う実証実験というのは全て夏の期間によるものとなっております。冒頭ご説明いたしましたが、やはり札幌のウォーカブル検討する上で冬のあり方というものは避けて通れない、絶対に検討しなければいけない項目となっておりますので、この民間提案で冬のウォーカブルのアイディアというものを募集しまして可能であれば、それを実際に実証実験のような形で実施した上で、効果検証してビジョンに反映していきたいと考えております。

○三谷委員

札幌市さん事務局に質問でしたが、これから市のプロジェクトチームを作つて都心、地域交流拠点、住宅市街地プロジェクトチームにわかつて議論を進めていくところですが、進める内容としてはどのようなことを議論していくなどの想定があれば教えてください。最終的にビジョンに取りまとめていくときに、各都心、地域交流拠点、住宅市街地と、これら環境がある中で、違う状況で3チームで議論したものをまたビジョンの中に取りまとめていく作業が必要になると思います。

そのあたりがある程度このビジョンの中で、共通項で3本の柱があつたと思うますが、先ほど大藪委員が言ってくれた、パターンであつたり、その共通項など、差別化やまた違う部分というものを、もう少し上位のものであつたり、ビジョン全体の骨子の具体を作つていくといった上で、プロジェクトチームに下ろしていくないと、取りまとめるのがとても大変になってくるということも出てきますので、そのあたりの作業イメージがもしあれば、細かい話で恐縮ですが、お聞きできればと思いました。

○事務局 廣瀬推進担当係長

資料の共有をさせていただきたいのですが、スライドで言いますと右下9となっています、論点1のスライドをまた共有させていただきたいと思います。右下9のもの、こちらのビジョンの構成案に示しております2番のところ、都心、地域交流拠点、住宅市街地、それぞれにおける目指す姿の整理、可視化が必要になります。これをまず行うにあたり、都心チーム、地域交流拠点チーム、住宅市街地チームを立ち上げて、この目指す姿を検討していきます。それぞれのエリアの特性に合わせて効果的な手法というものも

変わっていくと思いますので、効果的な手法もそれぞれで検討していきます。また、この論点1のところでご意見を聞いておりました、マトリックスで整理すべきではないかというようなことも踏まえまして、確かにそれぞれのプロジェクトチームがそれぞれで動いていくだけではなくて、一緒に検討しなければならないところもあるかと、今日の意見を踏まえまして考えておりますので、その部分は工夫しながら進めたいと思います。三谷委員からのご指摘にもありましたように、それぞれがバラバラに動いていくと、うまくまとまらないと思いますので、いただいた意見を踏まえて、どういった進め方がいいのかはまた改めて考えていきたいと思います。

○児玉政策推進課長

確かに先生がおっしゃるように、地域交流拠点と言いましても様々な特色がありますので、そこについてもプロジェクトチームで少し検討すると思います。できれば委員の皆様にも、都度アドバイスをいただきながら進めていければと考えております。ありがとうございます。

○三谷委員

ありがとうございます。今日ご参加委員の中にも、このようなビジョン作りの部分でご活躍されていらっしゃる方たちもおりますので、ぜひご意見を聞いてみたいと思いました。林さん、大藪さんいかがでしょうか。

○大藪委員

おっしゃる通りだと思います。了承します。

○有村委員長

その他ご質問ございませんか。大丈夫ですか。それでは、ここまで議事の全てのご説明が終わったと思いますが、全般通して、ここは言っておきたいということがございましたら受け付けます。何か皆さんございますでしょうか。

心の中にはいろいろと言いたいことがあるとは私は思いますが、先ほど事務局の方からいろいろご説明を聞いて、市の中のプロジェクトチームの会合等でも、お時間があれば参加していただくとか、都度コメントをいただくような形で、2回目の委員会に繋げていきたいと思いますので、皆様のご協力のほどどうぞよろしくお願ひいたします。私も一番最初に車中心から人中心に変えるというところで、人を中心に変えてくときの動機づけとは、どのようなものなのかという時に、車以上の快適性がないと選ばないと思っております。それはポイントで見て拠点空間の魅力を上げていくような話もあれば、歩いているときに、色々な発見があり、歩いて楽しいとかです。そういうものがあると、例えば通勤であれば、5日間のうち車移動を1日～2日間はやめて、公共交通で行こうとなるかもしれません。このようなところで他の空間整備、公共交通計画とも連動していく部分はあるかと思いますので、動線で人の動きを考えながら、ポイントポイントで実証実験の成果等をうまく使いながら、このビジョンの策定というものを進めていきたいと思いますので、皆様引き続きよろしくお願ひいたします。

それではお時間も 15 時近くになってきましたので、このあたりで意見交換は終わらせていただきます。

○林委員

一点だけ、よろしいですか。今日の内容を聞いて重複するところもあるのですが、ウォーカブルのその先に何を目指すということは、とても重要だと改めて思いまして、歩きたくなるとか歩いてる人が増えましたで本当に良いのでしょうか。今日もその社会実験の効果検証でイベントの効果検証をしても意味が無いというお話は、とても大事と思っておりまして、そのイベントの是非を問うようなことをしても、どうなるのだろうと思います。日常的にどうあるべきかどなたか言ってくださいましたけど、偶発的な出会いが生まれるとかも大切です。今別の場所で、私が関わっている事業があるのですが、そこでは地域の高齢者が子供に声をかけてはだめという流れになっています。怖い不審者の可能性もあることが理由なのですが、これはとても残念なので、お年寄りが子供に声かけしやすくなる町とかもあるでしょうし、何か外を歩いたことでどんな幸福があるのか、エリアごとに全然答えは違うと思うのですが、エリアごとにどのような状況になると良いのかみたいなところをまずは考えた上で、何かそこに対する効果検証、社会実験をしていただいて、その効果検証するということにしないと、それこそイベントの何か是非を問うものになってしまふと思ったので、本当にエリアごとにどういうシーンをつくり、どのような状況を目指していくのかというのを、もう少し解像度を上げていくことは、全てにおいてすごく大事と思いましたが、とても難しそうだとも思いました。以上です。

○有村委員長

ありがとうございます。大事な話だと思います。偶発的に、ソーシャルキャピタルの話とかも当然あると思いますし、そこが徐々に交流の場所が、拠点が整備されることによってその地域がどんどん知り合いが増えていくような話はイベントだけじゃなくてその仕掛けはインフラ側の責任もあるかと思いますのでそういったところに繋がるようなことがビジョンでもうたわれると良いと思っております。

○林委員

あと1点だけありまして、実際皆さんで一生懸命考えて出来上がったビジョンを実現に向けていくというところのステップも、今後変えていくことになると思います。それはもちろん民間だけではできないでしょうし、行政の方々だけでもできないでしょうし、今日もいろんな部署の部長さん方に来ていただいておりますけれども、もしかしたら府内だけでもできないというところがすごく大事になります。もしかしたら警察の方も同じプラットフォームの中に入れて行かないといけないケースもあるかもしれないですし、本当に多様なメンバーでビジョンの実現に向けて担っていくチームというのを、本当に今後20年50年ずっと考えていくような仕組みもあわせて考えていかなくてはいけないと改めて思った次第です。以上です。

○有村委員長

ありがとうございます。最後林さんが綺麗にまとめていただきましたので、ここでおおよその時間になってきましたので意見交換を終わらせていただきます。会の進行をご協力いただきまして誠にありがとうございます。それでは進行事務局にお戻しいたします。

6. 閉会

○児玉政策推進課長

有村委員長、本日の議事進行、本当にありがとうございます。
またご参加の委員の皆さんもご意見たくさんありがとうございました。では続いて、本日
参加の部長職3名から、それぞれ一言コメントをさせていただきたいと思います。
では、稻垣室長からお願ひいたします。

○稻垣都心まちづくり推進室長

改めまして都心まちづくり推進室長稻垣です。貴重なご意見ありがとうございました。
当室では、都心まちづくり計画という都心に特化したまちづくりの上位計画があるので
すが、スライドでもありましたかが関連計画の一つであり、今年度と来年度で見直しを進
めていきます。その計画の主要な論点の一つが、都心の中における歩きたくなるまち
づくり、ウォーカブルと思っておりまして、都心まちづくり計画の議論でも掘り下げてい
きますが、こちらの検討委員会の議論とも並行して進めますので、当然整合性を図り
ながら内容深掘りしていきたいなと思っています。加えて、具体的な流れはこれからで
すけども、都心の場合、やはり何処よりも機能が集積しているという状況と、それがゆえ
に自動車交通、あるいは物流も集積しているという何処とも違った特質があるので、そ
の交通機能を維持しながらもウォーカブルのあり方とは、どうあるべきなのかということ
が非常に大事だと思っておりまして、先ほどご紹介した物流の実験もまさしくその問題
意識で、今回初めて取り組むもので、イベントではないということですね。普段使いの
ウォーカブルを考える一歩として、今回チャレンジする取り組みになっております。い
ずれもこれからなのですが、検討を進めながら引き続き意見交換をさせていただいて、
意義のある内容にまとめていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○長谷川都市計画部長

都市計画部長の長谷川です。いろいろご意見ありがとうございます。我々の関連計
画として都市計画のマスタープランの見直しというのを今進めております。稻垣室長も
おつしやいましたけれども、我々もこの見直しに係る論点、課題として、居心地が良く
歩きやすく、滞留したくなる空間の形成というものを掲げておりまして、この点について
も、マスタープランの見直しの検討委員会の中でも議論を深めていきたいと考えてお
ります。当然ながらこのビジョンの検討委員会のいただいたご意見もマスタープランの方
に反映させて、より良い計画作りに努めていきたいと考えておりますので、こちらの委
員会でもいろいろご意見をいただければと思います。また引き続きどうぞよろしくお願
いいたします。

○小林総合交通計画部長

総合交通計画部長の小林でございます。本日はありがとうございました。私のところ
は、交通政策全般を担当しており、その中でも公共交通も担当しておりますが、今バス
が少なくなっていくという話もあり、いろいろとその状況が変わり、今までとは違う状況に
なっていくことがあると思っており、ウォーカブルという部分は、人が歩くというこ
とが非常に大事なことになっていくと思っています。我々は、長い時間をかけながら、道
路のネットワーク、環状通の機能強化をしたり、創成川通りのアンダーパス化をしたり、

都心に入ってくる車の抑制みたいなことを少しずつでもやってきており、以前に比べて都心のウォーカブルというものは、状況が整ってきている、やりやすい状況になってきているのかなと思っており、それを具体的に実現するために交通の解析をやって実現できる段階の次を、今後やっていく流れになると思いますので、状況や、フィールドが少しずつ整ってきていると思いますので、それを具体化して一つ形にできれば感じておるところでございます。引き続きいろいろご意見いただきながら進めさせていただきたいと思います。

もう1点、パーソントリップ調査をしっかりと行って、計画の中にしっかりと盛り込んでいきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

○児玉政策推進課長

では続いて、次回の委員会の開催は、11月頃を予定しております。委員の皆様には日程調整等でご連絡させていただきますのでよろしくお願ひいたします。オンラインで視聴されている皆様におかれましては最後までご参加いただき誠にありがとうございます。札幌市の取り組みについてご質問等ありましたら、札幌市の公式ホームページ、ウォーカブルの推進ページの中に問い合わせフォームがございますので、そちらからご連絡いただければと思います。

なお本日の資料につきましても、後日ホームページに掲載予定でございます。また先ほど資料の説明にもございましたけれども、明後日7月28日(日)10時から市民ワークショップを予定しております。これにつきましてもウォーカブルの目的でありますコミュニケーションの活性化であったり、ふれあい交流の機会になると思いますのでぜひ皆さん、若干まだ定員に余裕ございますので、お申し込みいただき、ご参加いただければと思います。

以上をもちまして本日の委員会を終了させていただきます。本日は皆さん誠にありがとうございました。ありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。

以 上